

議長定例記者会見 会見録

日時：平成25年7月1日13時00分～

場所：全員協議会室

1 冒頭の発言事項

6月定例会月会議を終えての感想

2 発表事項

「第7回紀伊半島三県議会交流会議」の開催について

3 質疑項目

発表事項に対する質疑について

参議院議員選挙について

みえ県議会だよりについて

参議院議員選挙について

紀伊半島三県議会交流会議について

1 冒頭の発言事項

6月定例会月会議を終えての感想

(議長)ただ今から、7月の議長定例記者会見を開催させていただきます。

まず、発表事項に入る前に、私の方から、6月定例会月会議を終えての感想を少し述べさせていただきます。

6月定例会月会議においては、特に、本県の年次報告書である「平成25年版成果レポート(案)」について、常任委員会を中心に活発な議論が展開され、様々な意見が出されたと聞いております。7月の予算決算常任委員会での委員間討議を経て、8月2日には知事への申し入れが予定をされておりますが、議会からの政策提案が県民の福祉の向上に少しでも寄与できればと考えております。

その他には、「新県立博物館」について連合審査会を開催したり、「県政だよりみえの新たな情報発信」について常任委員会での調査を重ねるなど、議会として問題提起もさせていただいたところでございます。

また、新エネルギー等の活用や、三重を売り込む営業戦略について調査する2つの特別委員会が、先週から、執行部からの聴き取りを行うなど具体的な調査を始めており、今後の展開に期待をしているところでございます。

最後に、本定例会月会議では、本県における飲酒運転の根絶を目的に、「三重県

ゼロ

飲酒運転0をめざす条例案」を議員提出条例として上程をし、可決をしております。

ます。

これまでも県議会では様々な政策条例の制定に向けて努めてきましたが、今回も計14回にわたり検討会を開催するなど、委員の皆さん方が精力的に政策立案に取り組まれたことに対し、改めて敬意を表したいと思います。今後は、執行部において、この条例に基づく取り組みをしっかりと行っていただき、本県での飲酒運転が少しでも0に近づくことを期待しております。

以上が、6月定例会議を終えての私の感想でございます。

2 発表事項

「第7回紀伊半島三県議会交流会議」の開催について

(議長) それでは、改めて、「第7回紀伊半島三県議会交流会議」の開催について、発表させていただきます。

「第7回紀伊半島三県議会交流会議」につきましては、お手元の資料のとおり、紀伊半島地域に共通する課題について、三重県議会、和歌山県議会、奈良県議会の三者で意見交換を行うために、7月26日に奈良県の吉野郡川上村で開催されます。

本県議会からは、私と前田副議長、そして東紀州地域から4名の議員、及び各会派から1名ずつの計9名が参加を予定しております。また、和歌山県議会からは8名、奈良県議会からは10名の議員が参加予定であり、三県合わせて27名の議員が出席をされる予定です。

今回の議題につきましては、「観光振興」と、「大規模災害に備えた「安心・安全」の政策について」となっております。

今回の交流会議を通じて、三県が共に協力し、より一層の紀伊半島の振興及び発展に繋がっていくことを期待いたしております。

私の方からの発表事項については、以上でございます。

3 質疑応答

発表事項に対する質疑について

(質問) 三県議会の交流会議出席者は、議長、副議長が残りの2県もご出席されるということでしょうか。

(議長) 議長、副議長は出席。

(質問) 全てということですね。ちなみに、議題の「観光振興」と2つ目の「大規模災害に備えた「安心・安全」の政策について」というのは、三重県から何か提案するというものは決まっているんですか。

(議長)今のところはまだ決めておりませんが、これから時間をとって、1回論議をしていきたい、私どもの議会として論議をしていきたいなと思っております。

(質問)大規模災害ということですが、この前の2年前の台風の大規模被害、紀伊半島の大水害がありましたけど、ああいったことをテーマにも話し合われることになりそうですでしょうか。

(議長)そうですね、特に紀伊半島ということでございますし、前回の災害でも和歌山、そしてまた三重、奈良も一部ございましたんで、一応そんなこともいろいろ想定をさせていただきながら、これからやっぱり積極的に対応していかないかと、こういうふうに思っておりますので、多分そんなところも私どもとしても論議をしていきたいなと思っております。

参議院議員選挙について

(質問)4日に参院選が公示されますけども、参院選で期待するものについてお願いします。

(議長)議長として参院選にどのような期待をするかということでございますけども、県民の皆さん方の負託を受けて決められる選挙でございますが、三重県としてするならば、地方が少しでも活性化をしていくように、そして合わせて地域の中の意見がどのように吸い上げられて、ある面では選挙の結果につながっていくのかなと、こんなところを期待していきたいなと思っております。

(質問)衆参ねじれの解消とか、そういうことについては何か見解ありますか。

(議長)議長としての立場ではなかなか申し上げにくい所がございますけども、ねじれの解消ということは、たくさんの皆さん方からお話が出ておりますので、それが解消されるというのは、県民の皆さん方の意思ということであるならば、私も了としていきたいなと思っております。

(質問)参院選についてなんですが、投票率の方はですね、どのようになりそうかというふうに見てらっしゃいますか。

(議長)私もそこに今はタッチをしておりませんので、なかなか申し上げにくい所がございますけども、前回からの流れからいきますと、今回は割と関心が高いというんですか、こんなところに思われておりますので、前回よりは投票

率は上がるんであろうかなと、このように期待をしております。

（質問）先の衆院選では三重県でも下がって、今回の先の都議選でも投票率が大きく下がったということがありましたけど、その流れからみてどうでしょうか。どのように考えますか。

（議長）すみません、組織票が下がったということですか。

（質問）いや、投票率が下がったと。最初から言いますと、12月の衆院選でも三重県内の投票率が下がり、都議選でも大きく下がったという傾向がある中で、そういう中で今回の三重県での参議院選挙はですね、投票率、どうでしょうね、下がる懸念が一般的にはあるのかなと思うんですけど、いかがでしょうか。

（議長）前回から比べると下がるとか上がるとか、ちょっとこれだけはそのあれですけど、私は期待がやっぱり高いということでは上がるんじゃないかなとこういう思いをしておるわけですけども、特に都議選のいろんな流れ、それから結果からして、今回のこの参議院選挙、特に三重県も大変厳しい選挙をやっておるところでございますので、県民の皆さん方のいろんな思いがある面では投票率のアップにつながっていくんじゃないかと思っていますので、結果はどういうことになるかは分かりませんが。

- 第二県政記者クラブ、どうぞ。

みえ県議会だよりについて

（質問）6月県議会を振り返ってというお話しをいただいた中で、県政だよりの件をおっしゃってましたけど、当局側の要請としては7月12日くらいに結論を出さないと、全市町等の自治会がもらっているお金の来年の予算組みとかそういうのに影響してくるので、多分タイムリミットは7月だと、そういう形になってますけれど、全体に拝見していると、議会としては県議会だよりもあるので、できたら全戸配布というご意見が多かったんですけど、これ逆に言うんですね、今7月1日から政務調査費の公開をしていますが、1億6千万円の埋蔵金がありますよね。これを半分なり拠出するとか、そういうお考えというのは、正副議長にお伺いしたいんですけどないですか。

（議長）県政だよりの全戸配布の件については、今、常任委員会のところでいろいろ論議をいただいておりますが、特に流れ的にはデータ放送を11月、当初2月くらいと言っていましたんですけど、先のこの常任委員会

では11月ぐらいにデータ放送を試験的に試みて、当局の方がそんな形で試みて、結果を見ながら検討しようというような話なりいろいろ出ているわけですが、担当が副議長の所ですから、後で答えていただきますけども、埋蔵金を何とかそういうところに充当してみてもどうかと、こんな話をいただいたんですけども、それはまあ、私としては今後積極的にやっていくということではなしに、いろいろ検討するところがあるなら1回検討すべきかなと、こう思うんですけども、流れ的には、当局の県政だよりとみえ県議会だより、この辺のところの絡みというのはなかなか切り離すのが難しいところかなと、こんな思いもしております、副議長の方から少し所見を述べさせていただいて、私はそんなところで考え方をこれから検討していきたいなと思っております。

(副議長) 県議会だよりについてですが、基本的に広聴広報会議の場で3度にわたり議論を深めさせていただいてまいりました。まだ最終結論には至っておりませんが、先ほどご指摘をいただいた市町の配布協力という部分がございますので、今月末に開催予定の広聴広報会議の中で一定の結論は出していかねばいけないのかなというふうに思っております。そして、その中でも、やはり県政だよりの動向に注視をしていくということが当然でございますし、常任委員会の中で議論を重ねていただいておりますし、先週の金曜日も岐阜県のデモテープをご覧いただきながら議論を重ねいただき、再度この12日に論点整理をするということで委員協議を開催いただくやに聞いております。その動向、議論内容を含めながら注視をし、議会として対応すべきことがあるならば対応していかなければいけないのかなと思っております。

(質問) ですから、1億6千万円、全部の埋蔵金使えとは言わないですけど、仮に8千万拠出すればですね、委員の方が望まれるような、県議会だよりも今までどおり全戸配布できますけど、その辺の心づもりで、例えばそれを議題にあげてですね、各党派等で話すとか、そういう方向性はないですか。

(副議長) 基本は県議会だよりとしてどうあるべきなのか、あるいは県政だよりの動向に注視しながら、ある程度歩調を整えながら、県政だよりと県議会だよりと別々の手法というのはあまり好ましくないのではないかなと思っておりますので、そういった調整も含めた上で、同時並行の議論が進められておりますので、県政だよりに対するあり方、県の広報広聴活動としてどうあるべきなのか、そういったところも含めながらの整理になっていくのかなと思いますので、その議論の動向を注視していきたいと当面は思っております。

(質問) 広聴広報関係で議会として結論を出すのは今月末ぐらいなんですか。

(副議長) 最終の結論は出ないか分からないですが、基本的に市町さんにご協力をいただいている部分の中での議会だよりとしてのあり方の考え方は、ある程度整理は今月末の会議をもって示したいと思っております。

(質問) タイムリミットはその辺りということですか。

(副議長) そうですね。自治会への説明も含めながら、来年度予算に向けた市町の取り組みも含めながら、ご迷惑をかけてはいけないと思いますので、県議会としての考え方、あるいは広報活動のあり方については方向性を示していきたいなと思っております。

(質問) 当局は、この前、去年の秋口から各市町に全戸配布を中止するということをして、5月末までに市町にアンケートも取って、そこでは特に市町から異論はなかったと結論付けていますけれども、ただ、市町に聞くと、配布金という形でもらっている自治会に話をしていないという市町も結構あるわけですね。今後、もし各市町が自治会の方に話をしたときに、当然トラブルが起きると思うんですけど、当局側は職員を派遣して自治会に直接説明してもいいと、この前、山口部長は言いましたけれども、その辺含めて議会の方でそういう体制に協力するというご意向はありますか。

(副議長) 基本的には、執行部の県政だよりというのが中心になりながら、県議会だよりは印刷会社で折り込みをしていただいた中での配布をしていただいているという部分がありますので、議会として求められれば、それは対応していかねばいけないのかなと思うんですが、基本的には執行部としての対応、そしてまた、県議会だよりとしてどうしていくのかということも方向性を示せばと思っておりますので、その結果の方向性も含めながら、必要であるならば必要な対応はしていきたいなと思っております。

参議院議員選挙について

(質問) 参院選ですけども、議長にお伺いしますけども、今回の参院選の争点は何だと思えますか。

(議長) 原発、それから今のこの体制って言うんですかね、自民党に対してのいろいろな見方という、そんなところも1つの争点になるのかなとは思いますが、

(質問) この正副議長さんの場合は所属会派を抜けての正副議長就任じゃないので、それぞれ会派をまだ背負っておられるからお聞きしますけど、副議長はいかがですか。争点は何だと思えますか。

(副議長) 参議院選挙の争点としてはいろいろあるかと思いますが、基本的には一番国民の方が政策の中で一番注視しているのは経済対策というアンケート調査結果も示されておろうかと思えます。そういった経済対策としてどういう政策を国民に訴えられるのか、一番その争点の部分が国民の皆さま方には興味をお持ちいただいております。

(質問) 参院選のいろんな応援要請については、正副議長それぞれ、応援はされるんですか。

(議長) 議長の私としてはなるべく中立性を保っていきなと思っておりますので、これからの公示に向けては中立的な立場であるべきかなと思っております。そんな動きでいくつもりです。

(質問) ということは、例えば、4日に公示されて自民候補も当然出陣式みたいなのもやられますけども、そこにはお出にならない。

(議長) ええ、今のところは行くつもりはしておりません。

(質問) 副議長はいかがですか。

(副議長) できるだけ、立場上、中立的な立場をとっていきなと思っております。ただ、マイクを持ったり、そういうところはできるだけ控えていきなと思っておりますが、行事等を含めながらの参加については、その程度はしていこうかなと思っております。必要によりマイクを持たせていただく機会もあるかもわかりませんが、できるだけ中立な立場で、心がけていきなと思っております。

(質問) 私は基本的に、さっき申し上げたように、所属会派を離れて正副議長に就かれるんだとしたら、これはある程度中立性が問われると思えます。ただし、所属会派は残したまま、正副に就かれていますので、ある意味当然その役、立場上ですね、そういうところへ招かれることもあると思うので、私はそれはそれで是だと思っておりますけども、そういうことも踏まえても、お二方も、ある程度中立性を保ちたいということですか。

(議長)今までは、私も議長就任ということで県政報告会をやらせていただいた時がありますけれども、ゲストでご本人が来たいという話もございましたもので、公示までは少し緩い判断でやっておりましたが、公示を迎えて、党の方も割と気を使っていたいておまして、私の方へは要請というものは今のところございませんから、できればそんな形でマイクも持たずに、そしてまた応援的なところもなるべくせずに、そんな形で今回の参院選は通してみたいなと思っております。

(副議長)先ほども申し上げたとおり、基本は中立のスタンスでできるだけ臨みたいと思っております。しかし、ご指摘のように地域での活動、あるいはいろんな活動の中で出席を求められれば、ある程度していきたく思いますし、マイクの要請もあるならばできるだけ必要最小限には抑えていきたく思っておりますが、持たせていただく機会もあるのではないかと考えております。

紀伊半島三県議会交流会議について

(質問)三県議会交流会議ですけど、4月か5月に三県知事会議を奈良県の信貴山でやったんですけど、その時に出ていたテーマの一つで大きいのがリニア中央新幹線の三重・奈良ルートなんですね。その要望を三県知事会議の中では出されているんですが、今回それはこの議会の方の会議の中ではそれはテーマにはならないんですか。

(議長)そうですね。今回はテーマとしては、「観光振興」と、そして、「大規模災害に向けての安全・安心」ということでテーマを設定しておりますので、今、私が事務局から、奈良県の方から聞いておる限りでは、そんなところについては話は聞いておりません。

(質問)ということは、今のままでいくとその話が出ないということですね。

(議長)そうですね。その他のいろいろな意見討論の中では出るかもわかりませんが、今のところは私どもからもそれについて、正副では発言をする気は今のところございません。

(質問)さっきの三県知事会議の中では、奈良の知事と三重県知事が互いに、名古屋までで止まっているやつを全線同時開通でなおかつ三重から奈良へ行かずルートだと。和歌山の知事は、関西広域連合に入ってますけど、広域連合は当然京都回りのお阪までのルートというのを要求していて、そのところは立

場が違うけど、私は三重・奈良ルートの方に賛成するとまで言って、三県知事会議の中でまとまった案なんですね。それからいくと、議会としては当然三重・奈良ルートにこの三県議会が反対するわけではないわけで、逆に言ったら、首長たちがそういうものを出せば、当然議会としてもそこは側面支援の面からもやる方がいいと思うんですけど、それは今後話し合いによってはということですか。

(議長) 今回のこの三県の議会交流のテーマの中では、幹事が決めてきておりますので、それはそれとして理解させていただいて、できれば今後の中ではそんな論議もやっていかないかなかなと思っております。特に、綱引きにもなるかもわかりませんが、そういう意味では一つ今日、皆さん方からいろいろな意見を聞かせていただきましたものですから、できれば早い時期にその機会があれば、お話をしていかなければいけないなと思いました。

(以 上) 13時28分 終了